２．大学院と現場との循環システムの成果と残された課題

１）「福祉現場と大学院の循環システムの構築」

福祉現場と大学院の循環システムの構築

日本福祉大学大学院
社会福祉学研究科長
児玉　善郎

大学院教育に福祉現場で活躍する人材に関わってもらうことにより、大学院生の実践力を養成し、高度な専門性を備えた人材づくりにつなげるとともに、福祉現場の人たちにとっても自分たちの実践を見つめ直し、現場実践の高度化につなげるという、相互教育システムの構築をめざして、以下に示すプログラムを実施した。

１．大学院修了者・同窓会との連携

１）大学院修了生を対象とした「循環システム構築」に関するニーズ把握のための調査実施

2001 年～2008 年に大学院を修了し、修士学位を取得した 178 人を対象に郵送アンケート調査を実施し、88 人から回答を得た。その結果から以下の点が把握できた。

①修了生は、大学院において現場での実践力を高める教育の内容と方法の充実が必要だと考えている。とくに、現場実践において、マネジメント能力や将来展望を描くことができる力を身につけたいと考えている。これから大学院に入学する人にとって、大学院で現場の課題を発見し、その改善に向けて実践する力を身につけられる教育が求められると修了生は考えている。

②修了生は、大学院修了後も、福祉現場での課題に対応するために学びの継続を望んでいる。

③修了生として大学院生の教育やインターンシップに協力しても良いと考えていること。

２）大学院修了者組織・同窓会との教育連携の実践

①福祉マネジメント研究会と大学院との共催によるフォーラム、シンポの開催

大学院修了者の組織である「福祉マネジメント研究会」と大学院が共同で、以下のような教育連携プログラムを実施した。

・2008 年２月 23 日「福祉の人づくり」
・2009 年２月 22 日「大学院修了者は，いま・・・－修了者と大学院とのパートナーシップをめざして」
・2010 年２月７日　「大学院教育におけるスーパービジョン」

大学院と修了者組織が共同で開催することで、修了生や現役院生等の幅広い参加を得て、共に学びを深める機会をつくることができた。大学院 GP 期間終了後も、大学院と修了者組織の共同による教育連携プログラムを実施することを計画している。

②大学院通信同窓会による通信スクーリングへの協力

社会福祉学専攻（通信教育）の現役院生を対象としたスクーリング（９月実施）において、大学院通信同窓会と現役院生の交流プログラムを、同窓会の主体的な企画により２年にわたり実施することができた。

合同プログラムでは、大学院担当教員の講演を現役院生、修了生が合同で学ぶ機会を設けた。さらに、修了生と現役院生による研究交流フォーラムを実施し、修士論文のまとめ方や、大学院修了後に大学院で学んだことをどう活かしているかなどについてのパネルディスカッションを行ったあと、小グループに分かれて交流し、相互に学びを深める機会とすることができた。

次年度においては、通信同窓会が、院生募集にも積極的に協力したいとの申し出も受けており、実施に向けて検討している。

３）「大学院地域セミナー」の開催

2009 年 10 月 31 日、11 月 1 日に、北海道札幌市において、北海道の地域同窓会の協力を得て、地方における大学院と福祉現場・修了生との循環のニーズを把握することをねらいとして、大学院地域セミナーを開催し、以下のような成果が得られた。

地方の学部卒業生、大学院通信在学生・卒業生の中に、大学院に入学したいと考えている者が少なからずいる。しかし、日本福祉大学大学院の情報が少なく、大学院で何を学べるのかがよくわらず、受験に至っていないケースがあること。また、学費、大学院通信のスクーリングに通う旅費など経済的な負担の大きさも受験の障害となっていること。

以上の成果を踏まえて、地方在住の実務家・修了生が大学院との連携や循環システムに参加できるように、インターネットを通じた連携や循環が実践できるように検討を進めている。

２．修了生、実務家の参加する研究会活動の促進

本学の教員と現場の実務家、修了生の参加する研究会活動の促進を行った。大学院キャンパスを研究会活動の場として広く活用するとともに、研究会の実施案内等を現役院生や福祉現場、修了生に積極的に広報することにより、各研究会の活動を活性化し、現場の実務家、修了生と現役院生が共に学び合う場となることをねらいとした。

大学院 GP を機会に、実務家の参加する研究会として「地域での暮らしを支える居住とケア研究会」を新たに立ち上げることができた。2009 年４月より２ヶ月に１回のペースで研究会の例会を開催し、2010 年３月末までに合計５回の例会を実施した。毎回の研究会においては、講師に話題提供をしてもらった上で教員、現役院生、修了生、実務家が一緒にディスカッションを行うことにより、大学院と福祉現場が共に学び合う場とすることができている。

３．医療・福祉現場との連携

１）　大学提携法人（14 法人）との連携

大学提携法人の一つである武蔵会に働きかけ、大学教員、実務家、修了生、現役院生が共に参加し、武蔵会の施設に訪問し、法人が取り組む組織マネジメント、職員評価、業務改善の取り組みに関する現場スタディを実施した（2009 年９月「武蔵野会視察研修の実施」）。

教員、修了生、大学院生に参加を呼びかけ、大学提携法人の一つである武蔵野会を訪問し、組織マネジメント、職員評価、業務改善の取組みについて学んだ。

さらに、大学提携法人の一つである北海道慈啓会に協力して、道内 90 法人を対象とした研修事業の実施に協力した（2009 年 10 月：「北海道慈啓会と共同で研修事業の実施」）

２）医療生協との連携

日本生活協同組合医療部会と連携し、医師幹部研修事業（2009 年８月 28～30 日）のプログラム検討、研修教材の開発および大学院教員が研修会講師として参加した。とくに、８月 28 日（金）、８月 30 日（日）の講義部分には、本学大学院生に無料公開し、数名の大学院生が受講した。医療・福祉現場と大学院との教育連携を実践することができた。

また、８月 29 日（土）に医師幹部を対象とした演習部分で使用する、ケース教材を、医療生協と実務家教員と本学教員が関わり、教材および研修方法の開発に協力し、実施した。

３．2010 年度以降の循環システムの推進に向けて

１）修了生や福祉現場の方の大学院での学びのニーズへの対応

北海道大学院セミナー等で把握した、遠隔地でも大学院の講義を学べる機会をつくって欲しいとの要望に対応して、通信による科目等履修ができるように準備を進める。具体的には、2010 年度に大学院の講義科目を数科目ビデオ撮影し、2012 年度から、インターネットを通じたビデオ講義により遠隔地で科目等履修ができるようにする。

２）大学院地域セミナー開催の継続

2009 年に実施した北海道での大学院セミナーの成果を踏まえ、2010 年度以降も、地方の同窓会や学部の通信教育部と連携し、年に 1 箇所、地方での大学院セミナーを開催する。

３）提携法人、福祉現場との連携

武蔵野会の視察訪問の成果を踏まえ、2010 年度以降も、現役院生、修了生に参加を呼びかけて、提携法人等における先進的な取組みに関する視察訪問を開催する。

また、提携法人や福祉現場と大学院教員が共同で研修事業や現場課題の調査・改善提案等の取組みを実施することを検討する。そこに大学院生や修了生が関わることで学びを深める効果を期待する。

４）福祉マネジメント研究会、大学院通信同窓会との連携推進

福祉マネジメント研究会、大学院通信同窓会と大学院との共同でのプログラム開催、スクーリングや院生募集、相談活動への協力を進めていく。

４．残された課題

１）インターネットを通じた大学院修了生の交流の場の整備

インターネットを通じて、日常的に大学院修了生同士、修了生と教員、修了生と現役院生が、情報交換や討論を行えるシステムの構築と運用を目指していたが、現状では充分な活用がされているとは言えない。

今後、インターネットでの交流、連携の必要性は増すと思われるので、交流サイトの周知による利用者の拡大と、活発な議論が展開されるべき仕組の構築(実務家や管理者を配置等)に取り組む。

２） 修了生、福祉現場との循環推進のための大学院の体制整備

大学院ＧＰ期間終了後においても、修了生や福祉現場に対応する組織、担当する教員を明確にし、大学院として積極的に循環、連携を推進していく体制を整備することが課題である。